

JAグループ施設事業優績組合表彰式を開催

事業を横断した総合力でさらなる機能強化を

施設部は8月8日、「令和4年度JAグループ施設事業優績組合表彰式」を関内ホールで開催。県下JA・JA子会社・全農役職員ら324人が集まった。特別優秀賞にJA横浜、JAセレサ川崎、JAさがみ、JAあつぎおよび各子会社が輝いた。併せて、優秀賞が2JAに、優良賞が2JAに、努力賞が1JAに贈られた。また受注契約高や初期情報収集件数、成約件数に応じてのべ115支所・支店を表彰した。

受賞組合を代表し、JA横浜の柳下健一組合長が「円安による建築資材の高騰や、人件費の高止まりにより、組合員の不動産経営にも影響が及び始めているが、今後もJAと子会社が連携を一層強化し、系統施設事業の優位性を確固たるものと位置付け、取り扱いの拡大を図っていく」とコメントした。

令和4年度JA施設事業は、県内貸家着工戸数が2年連続で増加したことを背景に、資産管理相談員を中心としたJAと子会社の連携の結果、前年を上回る受注高577億円の実績となった。

県本部運営委員会の平本光男会長は、生産資材の高騰や生産基盤

の縮小といった厳しい農業情勢の中、JAグループ経営基盤確立に向けた取り組みにおける資産管理事業の重要性を挙げ、「組合員の資産運用や資産保全、相続対策など、JAの相談対応機能の強化が求められている。今後もJAグループの総合力を発揮し、組合員の期待に応えるべく、力を注いでほしい」と呼びかけた。

同部では今後も、JA職員向けの研修や関連情報の提供、奨励施策の実施を通じて、指導・信用・共済部門との連携ならびに総合力を強化し、組合員の農家経営や資産管理を支援していく。

令和4年度 JAグループ施設事業優績組合一覧(コード順)	
特別優秀賞	JA横浜 (株)JA横浜協同サービス) JAセレサ川崎 (セレサ不動産(株)) JAさがみ (さがみ協同開発(株)) JAあつぎ (厚農商事(株))
優秀賞	JAはだの (株)協同コンサルトはだの) JA相模原市 (くみあい商事(株))
優良賞	JA湘南 (湘南くみあい商事(株)) JAかながわ西湘 (JAかながわ西湘不動産(株))
努力賞	JAよこすか葉山 (株)コンサルタント協同)



特別優秀賞受賞JAを代表し挨拶する
JA横浜柳下健一組合長



挨拶する平本光男会長

盛夏の開催 中古農機にも注目集まる

2023夏農機展示予約会

8月4・5日、JAグループとJA全農かながわ、農機指導員協議会の共催で、「農業機械展示予約会」が開催され、農機・資材メーカー36社が出展。2日間で1,503人が来場した。

今回は3年ぶりに中古農機販売会が同時開催され、全農各部や連合会もブースを展開するなど、少しずつではあるがコロナ禍前の開催形態に戻す動きが見られた。

35度近い気温の中、組合員は目当ての農機を目指して来場。各メーカーのブースに足を止め、実物を見て触りながら担当者の説明を受けた。また、中古農機販売会は多くの組合員で盛況を見せ、中古農機の需要・注目度の高さが伺えた。

農業の脱炭素や省力化がトレンドになる中、昨年冬に引き続き電動農機具コーナーが設置された。各社で

も電動農機具の展示が多く見られ、やまびこジャパン(株)はラジコン草刈機の操作体験を実施。組合員だけでなく、子どもも興味深そうに見学している様子が見られた。

事務局を担当した農機・自動車課は「猛暑の2日間ではあったが、多くの組合員に来場いただき、さまざまなメーカーの実機を直接ご覧いただける良い機会となった。省力化や環境配慮型の農機や、JAグループ神奈川推奨型式の充実を図り、組合員、生産者のニーズに合わせた商品提案を実現していきたい。」と話した。



リン酸原料の国産化で循環型農業を目指す

「下水再生リンの肥料利用促進に関する連携協定」を締結

JA全農かながわは7月27日、横浜市・JA横浜と「下水再生リンの肥料利用促進に関する連携協定」を締結した。

横浜市では現在、下水汚泥からリンを回収する施設の導入を進めている。今回の連携協定は、回収したリン(再生リン)を配合した肥料の開発・製造や流通・利用促進を目的に締結された。三者はそれぞれが持つ資源や強みを生かし、横浜市は再生リンの供給、JA全農かながわは再生リン配合肥料の商品化、JA横浜は再生リン配合肥料の普及・啓発をそれぞれ担う。

根本芳明県本部長は「肥料価格は海外情勢に大きく左右される。国からも脱輸入や地域の未利用資源の活

用が推進される中、再生リンの取り組みは有効であるとする。肥料の商品化・安定供給に向けてしっかり役割を果たしていきたい」とコメントした。

今後については、2027年に横浜市で開催される国際園芸博覧会「GREEN×EXPO 2027」に向けて取り組みを進め、肥料の国産化への貢献による食料安全保障の強化や、循環型農業の構築をアピールしたい考え。



さらなるブランド確立へ 加工品開発も進む

SG21 (湘南ゴールド生産・販売組織) 定期総会

県育成品種「湘南ゴールド」の生産・販売組織「JAかながわ西湘SG21 (以下、SG21)」の定期総会が7月21日にJAかながわ西湘本店で行われた。同日には流通関係者による報告会も行われ、JA全農かながわからは農産部中央ベジフルセンター、生活部生活課の職員が出席した。

令和4年産の湘南ゴールド集荷量は約160トン。表年であり収量が期待されたが、1月下旬の寒波により、す上がり(果汁が減少する低温障害)果が多く発生した。令和5年産は裏年ではあるものの、開花ならびに生育が早いと100トン以上の集荷量をSG21は予想している。

報告会では、卸売業者1社から販売情勢報告があったほか、本会中央ベジフルセンターは同センターからの販売先別出荷量を、生活課は規格外品の果汁・ピューレ等一次加工品への展開や、それらを利用した商品化の取り組み事例を報告した。前述のす上がり果も生産者の所得向上対策としてピューレや糖漬に加工後、菓子パンや生菓子の材料として使用された。湘南ゴールドは令和10年11月に育成権期間25年の期限を迎える。SG21榎本昌之会長は「行政と連携して対策を進め、ブランド確立を目指したい」と話した。



全野研大会が神奈川県で開催

～県内トピックス～

8月2日・3日の2日間、全国野菜園芸技術研究会(全野研)が「第66回全野研神奈川大会」を開催した。全国持ち回りで開催する同大会を全日程で開催するのは4年ぶり。野菜生産者や関係者が一堂に会して交流し、技術と経営を研鑽した。

1日目は藤沢市内で式典・講演・事例発表が行われ、神奈川県からは和田浩明氏、秋葉豊氏(いずれもJAさがみ)が自身の経営について発表し、たゆみない技術向上や斬新な経営手法が注目を集めた。併せて、野菜園芸の振興に貢献した功績者表彰も行われた。

2日目は現地視察が行われ、寒川町にある菊地園芸

(JAさがみ)では自作の環境制御型高軒高ハウスとトマトの苗づくりについて学び、ネポン株式会社厚木事業所では施設園芸用温風暖房機の製造ラインを見学した。

同研究会の渋谷忠宏会長(JAさがみ)は「10年先の農業経営を考えると課題はたくさんある。全農家がそのようなハードルを越えることができるように、常に農家に寄り添ってくれるJAとともに行政・メーカーと三位一体となってスクラムを組んでいきたい」とコメントした。

